

第1回 東寺方協創ミーティング 開催報告

日時：2024年7月28日（日）13:30～17:00

会場：多摩市立東寺方小学校 ランチルーム

第1回は、多摩市が事前に準備したプログラムで、これまでエリアミーティングに参画いただいている7名、市スタッフ3名、秋からのゼミ学生2名で小規模での開催がなされました。参加者数が限られていたことから、スタッフを含む全員が一般参加者として1つのテーブルで議論を行いました。自己紹介から始まり、これまでに実施されているミニプロジェクトの振り返りや地域課題について自由討論形式で、当初予定していた3時間を延長し、3時間半にわたる会となりました。

ミニプロジェクトを運営している多くの方々より、「ボランティアという考え方は心得としては大事だが、やはり対価は不可欠」との意見を複数いただきました。地域課題については、「国民年金で入居できる老後の施設設置案」が最初に提案されました。例えば、廃校になった校舎を活用し、校庭の一角を菜園とし、子どもたちの託児施設などを併設すれば、食の一部が自給自足でき、多世代型の教育的役割も果たすなど、様々な好循環が期待できるという画期的なアイデアでした。

さらに、食に関しては、現在モデルエリア内の農園さんのご協力によって地域に根ざしたプロジェクトが進められていることから、併せて展開を始めたいとの声がありました。また、現在モデルエリア内でうどん作りのための環境が整えられつつある進捗状況が報告され、あらゆる世代の人たちで協

力しながら地域活動につながる取組の期待が話し合われました。例えば、「一人暮らししている学生がうどんや食事を地域の人たちと作り賞味し、同時に学生が子どもたちに大学に進学する意義や楽しさについて説明する機会を提供し、子どもたちに勉強を教えるといったことが素晴らしい効果を得るのではないか」という案でした。その背景には、負の連鎖を解くための高度教育の位置づけが補足説明されました。

子どもたちに勉強を教える機会は、現在プロジェクトとして考案されている寺子屋構想につながります。その活動拠点には、神社が地域の集まる地点になっているのではないかと声がありました。拠点（＝拠りどころ）については、神社だけでなく、東寺方老人福祉館において、様々な地域のパイプ役が担われており、福祉的避難所として建物3階フロアに95名までの収容が可能である点などが紹介されました。

一方で、拠りどころをサポートする仕組が十分になるために、現時点様々な課題が山積している点が共有されました。そこで、拠りどころに限らず、色々な地域の場において、事前登録制のシステム構築の必要性が話し合われました。需給のマッチングについては、既に社会福祉協議会がプラットフォームを導入済みであり、お互いに持ち味を生かしあえるような何らかの形での連携ができればとの議論になりました。

この登録制度については、インセンティブ論が重要な役割を果たし、例えば、登録制度に従った人たちには、イレギュラー時に特別手当支給の対象となる等の仕組案が提案されました。

第1回は、新たな仕組の検討といったニュアンスでスタートしましたが、全体を振り返った時に、実はこれまでにエリアミ

ーティングで積み上げられてきた「5 + 1グループ」の有機的な連携に帰結することが確認されました。同時に、これまでのエリアミーティングにおいて議論されたものの、未だ行動や解決に至っていない地域課題について話し合うことが引き続き重要である点が再確認され、「有言実行」の四字熟語とともに第1回が総括されました。

モデルエリアでは9月の防災活動、10月の山神社祭礼など、様々な地域活動が予定されていることを元自治会長さんより共有いただくことができました。秋からはゼミメンバーが総勢30名を超える規模になることから、あらゆる活動に無理なくゼミメンバーが関りを持つことのできる仕組を整えてまいります。また、秋以降には、地域特性を考慮した獨創性に富む企画・運営をゼミで主体的に進めていくこととしており、地域の皆さまのご指導を受けながら、効果的な課題解決型ミーティングを展開してまいります。

（ゼミ研究室）



写真：第1回 東寺方協創ミーティングの様子